

# 海軍公報

(部内限) 第千百九十三號

大正十三年十一月一日(土)

海軍大臣官房

## ○通牒

逓給第八九號

外國ニ在ル者又ハ外國ニ派遣スル艦船乗組ニ對スル恒  
例ニ依ル年末又ハ年度末實與ハ俸給、給料又ハ報酬金  
ニ準シ家族ニ下渡シ相成リ可然

右通牒ス

大正十三年十一月一日

海軍省理局長 深水貞吉

## ○辭令

第六驅逐隊ニ於ケル露語通譯嘱託ヲ解ク(ナガマ海軍省)  
峰松傳一

海軍公報(部内限)第一一九三號 大正十三年十一月一日

四三一

1896

# 海軍公報(部内限)附錄

大正十三年十一月一日(土)

海軍大臣官房

○ 命達  
官房第三三〇五號  
大正十三年度歲出臨時部細節科目左ノ通變更ス

海軍大臣財部彌

軍備補充費、軍艦製造費

伊號第一壹 (舊第七十四潛水艦)	伊號第一壹 (舊第七十四潛水艦)	呂號第二十一潛水艦 (舊第三十九潛水艦)	呂號第二十一潛水艦 (舊第三十八潛水艦)	伊號第五十二潛水艦 (舊第五十一潛水艦)	伊號第五十二潛水艦 (舊第五十一潛水艦)
伊號第一貳 (舊第七十五潛水艦)	伊號第一貳 (舊第七十五潛水艦)	呂號第二十二潛水艦 (舊第四十潛水艦)	呂號第二十三潛水艦 (舊第四十一潛水艦)	呂號第十五潛水艦 (舊第二十四潛水艦)	呂號第十六潛水艦 (舊第二十四潛水艦)
伊號第二十一潛水艦 (舊第四十一潛水艦)	伊號第二十一潛水艦 (舊第四十八潛水艦)	呂號第二十六潛水艦 (舊第四十五潛水艦)	呂號第二十七潛水艦 (舊第四十六潛水艦)	呂號第十七潛水艦 (舊第三十四潛水艦)	呂號第十八潛水艦 (舊第三十五潛水艦)
伊號第五十一潛水艦 (舊第四十四潛水艦)	伊號第五十一潛水艦 (舊第四十四潛水艦)	呂號第二十八潛水艦 (舊第五十八潛水艦)	呂號第二十九潛水艦 (舊第五十九潛水艦)	伊號第五十二潛水艦 (舊第五十一潛水艦)	伊號第五十二潛水艦 (舊第五十一潛水艦)

海軍公報(部内限)附錄

(限 内 部)

呂號第三十潛水艦 (舊第六十九潛水艦)	呂號第十八潛水艦 (舊第三十五潛水艦)	呂號第三十二潛水艦 (舊第七十一潛水艦)	呂號第三十四潛水艦 (舊第五十五潛水艦)	呂號第三十六潛水艦 (舊第二十七潛水艦)
呂號第六十九潛水艦 (舊第六十九潛水艦)	呂號第十九潛水艦 (舊第三十九潛水艦)	呂號第二十一潛水艦 (舊第三十九潛水艇)	呂號第二十二潛水艦 (舊第三十九潛水艇)	呂號第二十三潛水艦 (舊第五十一潛水艇)
呂號第三十一潛水艦 (舊第七十一潛水艇)	呂號第二十二潛水艦 (舊第三十一潛水艇)	呂號第二十四潛水艦 (舊第四十一潛水艇)	呂號第二十五潛水艦 (舊第四十一潛水艇)	呂號第二十七潛水艦 (舊第五十三潛水艇)
呂號第三十二潛水艦 (舊第七十一潛水艇)	呂號第二十一潛水艦 (舊第三十一潛水艇)	呂號第二十六潛水艦 (舊第四十二潛水艇)	呂號第二十八潛水艦 (舊第五十四潛水艇)	呂號第二十九潛水艦 (舊第五十五潛水艇)
呂號第五十七潛水艦 (舊第四十六潛水艇)	呂號第二十三潛水艦 (舊第四十六潛水艇)	呂號第二十七潛水艦 (舊第五十一潛水艇)	呂號第二十九潛水艦 (舊第五十九潛水艇)	呂號第三十一潛水艦 (舊第五十九潛水艇)
呂號第五十八潛水艦 (舊第四十七潛水艇)	呂號第二十四潛水艦 (舊第四十七潛水艇)	呂號第二十八潛水艦 (舊第五十八潛水艇)	呂號第五十六潛水艦 (舊第五十六潛水艇)	呂號第五十七潛水艦 (舊第五十七潛水艇)
呂號第六十一潛水艦 (舊第五十九潛水艇)	呂號第五十九潛水艦 (舊第五十九潛水艇)	呂號第二十六潛水艦 (舊第五十八潛水艇)	呂號第五十八潛水艦 (舊第五十八潛水艇)	呂號第五十九潛水艦 (舊第五十九潛水艇)
呂號第六十二潛水艦 (舊第六十二潛水艇)	呂號第六十二潛水艦 (舊第六十二潛水艇)	呂號第五十八潛水艦 (舊第五十八潛水艇)	呂號第五十九潛水艦 (舊第五十九潛水艇)	呂號第六十一潛水艦 (舊第六十一潛水艇)
呂號第六十三潛水艦 (舊第六十三潛水艇)	呂號第六十三潛水艦 (舊第六十三潛水艇)	呂號第五十九潛水艦 (舊第五十九潛水艇)	呂號第六十二潛水艦 (舊第六十二潛水艇)	呂號第六十四潛水艦 (舊第六十四潛水艇)

1899

# 海軍公報

(部内限) 第千百九十四號

大正十三年十一月五日(水)

海軍大臣官房

## ○令達

關係各廳長殿

無線電信研究通信ノ件

左記要領ニ依リ研究通信實施相成度

右依命申進ス

記

練習艦隊對陸上無線電信所研究通信要領

### 一、目的

イ、八雲裝備六「キロ」電球式送信機ノ通信能力調査

ロ、佐世保電信所一〇〇「キロ」發電機式送信機ノ通信能力調査

ハ、東京及佐世保電信所ニ於ケル放送通信ノ通達狀況調査

二、參加船所

練習艦隊所屬各艦及東京佐世保大湊宗谷各海軍無線電信所

### 三、期間

船種	公稱番號	所屬	記事
橋船 長五一呎 幅一四呎	第三五〇號	海軍大臣財部彪	教育諸費ニテ製造
	第三五二號	海軍兵學校	海軍兵學校ニテ使用中ノモノ

(限) (内) 登力

官房第三三三〇號  
通常物品タル左記橋船ヲ雜役船ニ編入シ其ノ公稱番號  
所屬等左ノ通定ム

誠 大正十三年十一月五日

海軍大臣財部

記

事

記

事

記

事

記

事

記

事

記

事

記

○通牒

教育機密第二二六號

大正十三年十一月三日

海軍省教育局長

白根熊三

四三三

1900

自大正十三年十一月十二日  
至同十三年十二月三十日

四、通信時間 送信波長等

送信所	送信(信時時間)(中央標準時)	送信機及送信波長	受信船所	樣式第一							
				月日	時刻	送信地	電流	天候	速度	放送回數	送出日
八雲	午前九時五十分ヨリ 午後九時五十分間	電球式六吉 二五〇〇米	參加各無線電 信所								
佐世保	奇數日 午後二時五十分ヨリ 偶數日 午前二時五十分間	發電機式 九二〇〇米	練習艦隊所屬 各艦								
東京	奇數日 午後二時五十分間 偶數日 午前二時五十分間	電球式一五吉									

- 備  
一、送信開始時刻ニ至ラハ送信船所ハ全勢力ヲ以テ「クン」數回次テ簡単ナル試験通信文(八雲ハ自艦艦位ヲ加フ)ヲ放送スルモノトス  
但送信開始時刻ニ實用信ヲ送受信中ナルトキ  
ハ其ノ終了後送信スルモノトス  
二、本研究通信ニ於テハ應信解信ヲ行ハサルモノトス  
三、東京、佐世保電信所ハ八雲送信ノ感ナキニ至ラハ其ノ旨同艦ニ通報シ同艦ハ上記各電信所  
ヨリ不感ノ報ヲ得ハ適宜送信ヲ止ム

考  
五、成績調査

# 海軍公報

(部内限) 第千百九十五號

大正十三年十一月六日(木)

海軍大臣官房

## ○令達

官房機密第二二九四號  
大正十三年十一月六日  
年末年度末賞與内規左ノ通改正ス  
大正十三年十一月六日  
海軍大臣 財部 邦

改正

四分ノ二以上  
四分ノ一未満

全額ノ七割以内  
全額ノ五割以内

海軍燃料廠採炭部及平壤鐵業部ノ官役職工人夫ニハ  
前項ノ規定ヲ適用セサルコトヲ得

勤務日數ハ年末年度末賞與ヲ通シ前回ノ賞與期ノ翌  
日ヨリ起算シ第一條ニ規定スル令達ニ依リ定メラレ  
タル賞與ノ日迄ノ日數ヲ一期間トス

左ノ日數ハ勤務日數ヨリ之ヲ除算ス

一、待命、休職、停職、歸休、留置、收禁、所刑、  
所罰及逃亡中ノ日數

一、公務ニ因ラザル傷痍、疾病ノ爲又ハ自己ノ願  
ニ依リ勤務ニ服セサル間ノ日數但シ合計三十

本賞與ノ給額ハ勤務日數ノ長短ニ應シ左ノ通

第三條ノ外本内規ニ依リ支給スルモノトス

差等ヲ附スルモノトス但シ所屬長官ハ卒素ノ勤務狀

態ニ依リ適宜減額スルコトヲ得  
勤務日數(一期間ヲ一トシテ)  
四分ノ三以上

賞與額

全額以內

定期賞與ヲ受クル職工ヨリ轉雇、轉備又ハ任用セラ  
レタル者ノ勤務日數ハ割合ハ最終ノ賞與期ノ翌日ヨ

海軍公報(部内限)第一一九五號 大正十三年十一月六日

四三五

1902

リ起算シテ之ヲ定ム

第四條 軍人、文官、同待遇者ニシテ歸休中ノ者及勤務日數三十日未滿ノ者並懲戒スヘキ行爲ニ因リ待

命、休職又ハ停職中ノ者ニハ本賞與ヲ支給セス

第五條 一期間内ニ於テ刑ヲ受ケタル者ニ付テハ當該

賞與額ノ五割以上ヲ、罰ヲ受ケタル者ニ付テハ同三割以上ヲ當該賞與額ヨリ控除スルモノトス

第六條 賞與施行當日身分ニ異動ヲ生シタル場合ハ左記ニ依リ賞與額ヲ定ムルモノトス

進級又ハ増俸セラレタル者 新俸給 在職俸

待命ト爲リタル者 在職ヨリ 在職俸

休職ト爲リタル者 在職ヨリ 待命俸

待命、休職ヨリ復職シタル者 在職俸

退現役、退官、退職、解雇、解僱及解囑者 在職俸又ハ在職中ノ

在職タリシ者 在職ヨリ 在職俸

待命タリシ者 待命俸

休職タリシ者 待命俸

所屬ヲ變更シタル者ハ舊所屬廳ニ於テ支給ス但特別ノ事情アル場合ハ舊所屬廳ニ於テ其ノ賞與額ヲ決定

移牒シ新所屬廳ニ於テ之ヲ支給スルコトヲ得

第七條 賞與金ハ特別ノ令達ナキ限り各基本給與相當費目ヨリ支出スルモノトス

第八條 日給者ハ日給三十日分ヲ以テ一箇月分トス

第九條 賞與ノ辭令書ハ別ニ之ヲ交付セス

### ○ 雜 款

○委員會事務結了  
對潛水艦方策調查研究委員會事務ハ結了ノ旨十月三十日報告アリタリ

1903

# 海軍公報

(部内限) 第千百九十六號

大正十三年十一月七日(金)  
海軍大臣官房

## ○通牒

海令機密第一九〇號

大正十三年十一月七日

海軍軍令部副官 大湊直太郎

各鎮守府、艦隊、  
要港部參謀長 殿

大演習用「タイプライター」及暗號  
書類ノ取扱ニ關スル件

大演習用トシテ配布ヲ受ケタル「LCS タイプライタ  
ー」及暗號書類並統監部員用「コロナ、タイプライタ  
ー」ニシテ各部ニ殘留セルモノハ左記ニ依リ御取計相  
成度

右照會ス

記

一、「LCS タイプライター」

(一) 第一、第二艦隊司令部ニ配布セルモノハ其ノ儘

海軍公報(部内限) 第千百九十六號 大正十三年十一月七日

四三七

(二) 第一、第二艦隊以外ニ在リテハ至急軍令部副官  
宛返却ノコト  
但シ鎮守府要港部所在地ノ無線電信所ニシテ本  
器ノ使用ヲ希望スル向ハ其ノ旨軍令部副官宛請  
求スルト共ニ借用票ヲ送附シ引續キ使用スルコ  
トヲ得(既ニ借用票ヲ然附シ亞  
ル向ハ其旨通知アリ度)

二、暗號書類

青軍用戰暗號書

青軍用換字暗號表

至急軍令部副官宛返却ノ  
コト

大正十三年  
海軍大演習  
赤軍用暗號  
三、統監部員用「コロナ、タイプライター」ニシテ各部  
ニ殘留セルモノ  
至急軍令部副官宛返却ノコト

1904

# 海軍公報

(部内限) 第千百九十七號

大正十三年十一月八日(土)

海軍大臣官房

天山

海軍艦政本部ニ於テ本年八、九月中解傭セル職工左ノ  
如シ

恩第五九一號  
大正十三年十一月八日

關係各廳長殿

海軍省人事局長 山梨勝之進

恩給年加算ニ關スル件

本年度海軍大演習ニ於テ北緯四十度東經百六十度ノ點  
ト北緯二十度東經百四十度ノ點トヲ連結スル線ノ以東  
以南ノ海面ヲ航行シ一航程千浬ヲ超ヘタル艦船ノ乗員  
ハ恩給法第三十九條ノ規定ニヨリ加算セラル儀ト御  
承知相成度

右爲念通知ス

解傭月日	解傭事由	職名	氏名	生年月日
八、一九	依頤	圓工		明治 二〇、二、八 吳一三六
八、二四	同	記錄工		二〇、二、八
八、二六	同	同		二〇、二、八
九、一〇	同	雜工		二〇、二、八
八、二六	同	同		二〇、二、八
九、六	同	同		二〇、二、八
九、一〇	同	同		二〇、二、八
八條第十號	同	同		二〇、二、八
工務規則第二十	同	同		二〇、二、八
圖工	同	同		二〇、二、八
五、九二三	同	同		二〇、二、八

解傭月日	解傭事由	職名	氏名	生年月日
九、一〇	同	雜工		明治 二〇、二、八 吳一三六
八、二六	同	同		二〇、二、八
九、六	同	同		二〇、二、八
九、一〇	同	同		二〇、二、八
八、二六	同	同		二〇、二、八
九、六	同	同		二〇、二、八
九、一〇	同	同		二〇、二、八
八條第十號	同	同		二〇、二、八
工務規則第二十	同	同		二〇、二、八
圖工	同	同		二〇、二、八
五、九二三	同	同		二〇、二、八

○職工解傭

○雜款

海軍公報(部内限)第一一九七號

大正十三年十一月八日

四三九

1905

# 海軍公報

(部内限) 第千百九十八號

大正十三年十一月十日(月)  
海軍大臣官房

(限 内 部)

## ○辭令

海軍機関大尉 梅田 正澄  
臨時潜水艦實驗調查會委員ヲ命ス (十一月海軍省)

第二班第四課勤務ヲ命ス (十一月海軍軍令部)

海軍軍令部參謀海軍少佐 住山 德太郎  
第二班第四課長ヲ命ス

海軍軍令部出仕海軍中佐 廣田 穂  
(各通) 同 同 杉坂悌一郎

第三班長ノ命ヲ承ケ服務スヘシ(以上セリ同)

## ○雜款

○懲罰  
懲罰言渡書

海軍公報(部内限)第一二九八號 大正十三年十一月十日

四四一

1906

# 海軍公報(部内限) 第千百九十九號

大正十三年十一月十一日(火)  
海軍大臣官房

## ○通牒

右報告ス

経調第三九四號

大正十三年十一月十一日

海軍省經理局長 深水貞吉

契約擔任官殿

契約締結報告ノ件

會計法第三十一条第二項ニ依リ契約ヲ締結シタル場合

ハ爾今別紙様式ニ依リ報告書提出相成度

右通牒ハ

(別紙)

大正 年 月 日

契約擔任官 職 氏 名

海軍大臣宛  
隨名競争  
契約締結報告

會計法第三十一條第二項ニヨリ別紙ノ通契約ヲ締結セ

海軍公報(部内限) 第一千九十九號

大正十三年十一月十一日

四四三

1907

本月十日公報（部内限）辭令欄中海軍軍令部參謀海軍少佐「住山德太郎」ハ「降幡敏」ノ誤

2. 認メタル事實  
同第三號ノ場合ニハ構造又ハ品質ノ特種ナル點及検査ノ困難ナル事實
3. 同第四號ノ場合ニハ契約違背ニ因リ政府ノ事業ニ著キ支障ヲ來スノ虞アル事實
4. 同條第二項ノ場合ニハ一般競争ニ付スルヲ不利ト認ムヘキ特種ノ事由
5. 同第二十四條第一項第一號ノ場合ニハ前契約事項トノ關聯程度及之ヲ分割履行セシムルヲ不利トスル事實
6. 同第二號ノ場合ニハ調査シタル時價
7. 同第三號ノ場合ニハ所要總數量及時價並價格ヲ勝貴セシムルノ虞アリト認メタル事實
8. 同第五號ノ場合ニハ契約ノ機會ヲ失シ又ハ著シク不利ト爲ルヘキ虞アリト認メタル事實
9. 同條第二項ノ場合ニハ一般競争ニ付スルヲ不利ト認ムヘキ特種ノ事由

○正誤

○雜款

1908

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千二百號

大正十三年十一月十二日(水)

海軍大臣官房

○雜款

本月六日年末年度未賞與內規第四條中「停職中ノ者」  
ノ次ニ「及處刑中ノ者」ヲ脱ス

1909.

# 海軍公報

(部内限) 第千二百一號 大正十三年十一月十三日(木)

海軍大臣官房

## ○通牒

教育第四七三號

大正十三年十一月十三日

海軍省教育局

關係各基本部御中

懸賞費ノ件

大正十三年度彈薬供給、通信傳令、操舵競技懸賞費請

求未済ノ向ハ至急請求相成度  
右照會ス

艦本第六二七一號

大正十三年十一月十三日

海軍艦政本部長

吉川安平

關係監督官一殿

各工作處長一殿

關係各部工事分擔區分二

造兵造船造機各部工事分擔

關スル件

明治四十四年七月二十日艦本第二六〇七號及同四十三

年二月八日艦本第五七四號造兵造船造機各部工事分擔

區分中電氣通信器關係ノ部別表ノ通り改正ス  
右通牒ス

追テ本件ハ左記ノ通實施ス

記

一、既成艦船及陸上部隊 大正十四年以降

(一) 巡洋艦 加古、古鷹以降

(二) 驅逐艦 大正十二年度建造ノモノ以降

(三) 潛水艦

伊號第六十一、伊號第五十六、  
伊號第五十七、伊號第五十九、

伊號第六十、伊號第六十三、  
伊號第六十二、以降

伊號第一十五、伊號第二十四、  
伊號第二十六、以降

伊號第四、以降

呂號第六十七、呂號第六十五以降

(四) 航空母艦  
赤城、加賀ハ從前ノ區分ニ依ル

(五) 水雷母艦  
大正十四年度以降

海軍公報(部内限)

第三〇一號

大正十三年十一月十三日

四四七

1910

(六) 帆海艇 第四號掃海艇ハ從前ノ固分ハ依

(七) 其他 大正十四年度以降  
明治四十四年七月二十日艦本體第二六〇七號「第III電  
氣部」表中「通信裝置」ノ欄ヲ左ノ通改正

(別表1)

工器 事 業 主 名 稱	新造 艦 船	既成 艦 船	主 要 工 施 設											
			工 施 設 主 要 部 位											
傳聲管用呼給	兵 兵 兵	兵 兵 兵	兵 兵 兵	兵 兵 兵	兵 兵 兵	兵 兵 兵	兵 兵 兵	兵 兵 兵	兵 兵 兵	兵 兵 兵	兵 兵 兵	兵 兵 兵	兵 兵 兵	
通 信 裝 置	電 氣 傳 導 部 及 測 量 部 電 氣 傳 導 部 及 測 量 部 電 氣 傳 導 部 及 測 量 部 電 氣 傳 導 部 及 測 量 部	電 氣 傳 導 部 及 測 量 部 電 氣 傳 導 部 及 測 量 部 電 氣 傳 導 部 及 測 量 部 電 氣 傳 導 部 及 測 量 部 電 氣 傳 導 部 及 測 量 部	新造 艦 船	既成 艦 船	新造 艦 船	既成 艦 船								
以上ノ外電氣的電錶或電壓 等兵器溝通裝置 通信裝置	兵 兵 兵 兵 兵 兵	兵 兵 兵 兵 兵 兵	兵 兵 兵 兵 兵 兵	兵 兵 兵 兵 兵 兵	兵 兵 兵 兵 兵 兵	兵 兵 兵 兵 兵 兵	兵 兵 兵 兵 兵 兵	兵 兵 兵 兵 兵 兵	兵 兵 兵 兵 兵 兵	兵 兵 兵 兵 兵 兵	兵 兵 兵 兵 兵 兵	兵 兵 兵 兵 兵 兵	兵 兵 兵 兵 兵 兵	

(別表1)

明治四十三年十一月八日 艦本第五七四號「第參通信裝  
置」表ヲ左ノ通り改正

番 號	品 名	主 要 工 施 設	主 要 工 施 設											
			新 造 艦 船	新 改 造 艦 船										
1	機械室罐室軸路間 通信裝置	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機
2	回轉通信機	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船
3	「エンデン」「テレ	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船
4	「アラーリング」「ラフ」	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船
5	「ヘルムインチケー	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船
6	「ターン」「アルテー	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機
7	「ストーリング」 「データー」	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機
8	速度計	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	船
9	上記以外ノ通信裝置	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船

1911

# 海軍公報

(部内限) 第千二百二號

大正十三年十一月十四日(金)

海軍大臣官房

1912

(限 内 部)

## ○令達

官房機密第一三四九號ノ二

大正十三年十月官房機密第一三四九號下士官兵年末賞與支給登載ノ件中「十一月三十日」ヲ「十一月二十日」ニ改ム

大正十三年十一月十四日

海軍大臣財部彪

## ○雜款

○正誤

本月十一日公報(部内限) 經調第三九四號通牒本文中  
「契約ヲ締結シタル場合」ノ下「ノ報告書」ヲ脱シ、  
「別紙様式ニ依リ」ノ下「報告書」ヲ削除ス

海軍公報(部内限) 第一千二百二號 大正十三年十一月十四日

四四九

# 海軍公報

(部内限) 第千二百三號

大正十三年十一月十五日(土)

海軍大臣官房

○令達

官房第三四五八號  
左記ノ通籍役船ノ所屬ヲ變更ス  
大正十三年十一月十五日

海軍大臣 財部 彪

船種 公稱番號 舊所屬 新所屬 記事

測量艇 機發動 第三五九號	カツタ一 第二三四號	内火艇 三〇呎 第五八九號	四二呎	第五九〇號	工佐世保海軍	佐世保海軍	軍港務部 佐世保海軍	軍港務部 佐世保海軍	第一道外 鐵除供用外
			三〇呎	第五八九號	工佐世保海軍	佐世保海軍			
水路部	防備時海軍	横須賀海軍 部(保管)	港務部	佐世保海軍	學海軍機關	佐世保海軍	軍工廠 臨時	臨時	附屬
			附屬	定期 充數	補定	臨時			

海軍公報(部内限) 第二二〇三號 大正十三年十一月十五日

四五一

1913

# 海軍公報

(部内限) 第千二百四號

大正十三年十一月十八日(火)

海軍大臣官房

## ○通牒

艦本機密第三〇一二號

大正九年官房機密第一六七五號別冊海軍機密書類貸與  
工場名簿中左ノ通改正セラル

大正十三年十一月十八日

海軍艦政本部長 吉川安平

一、大阪地方ノ部

「大阪電機製造株式會社」ハ「内外電熱器株式會  
社」ト名稱變更ス

海軍公報(部内限)第一二〇四號 大正十三年十一月十八日

四五三

1914

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千二百五號

大正十三年十一月十九日(水)

海軍大臣官房

○判決  
○雜款

海軍公報(部内限) 第千二百五號  
大正十三年十一月十九日

四五五

1915

毎電公報(郵便) 第二二〇五號 大正十三年十一月十九日

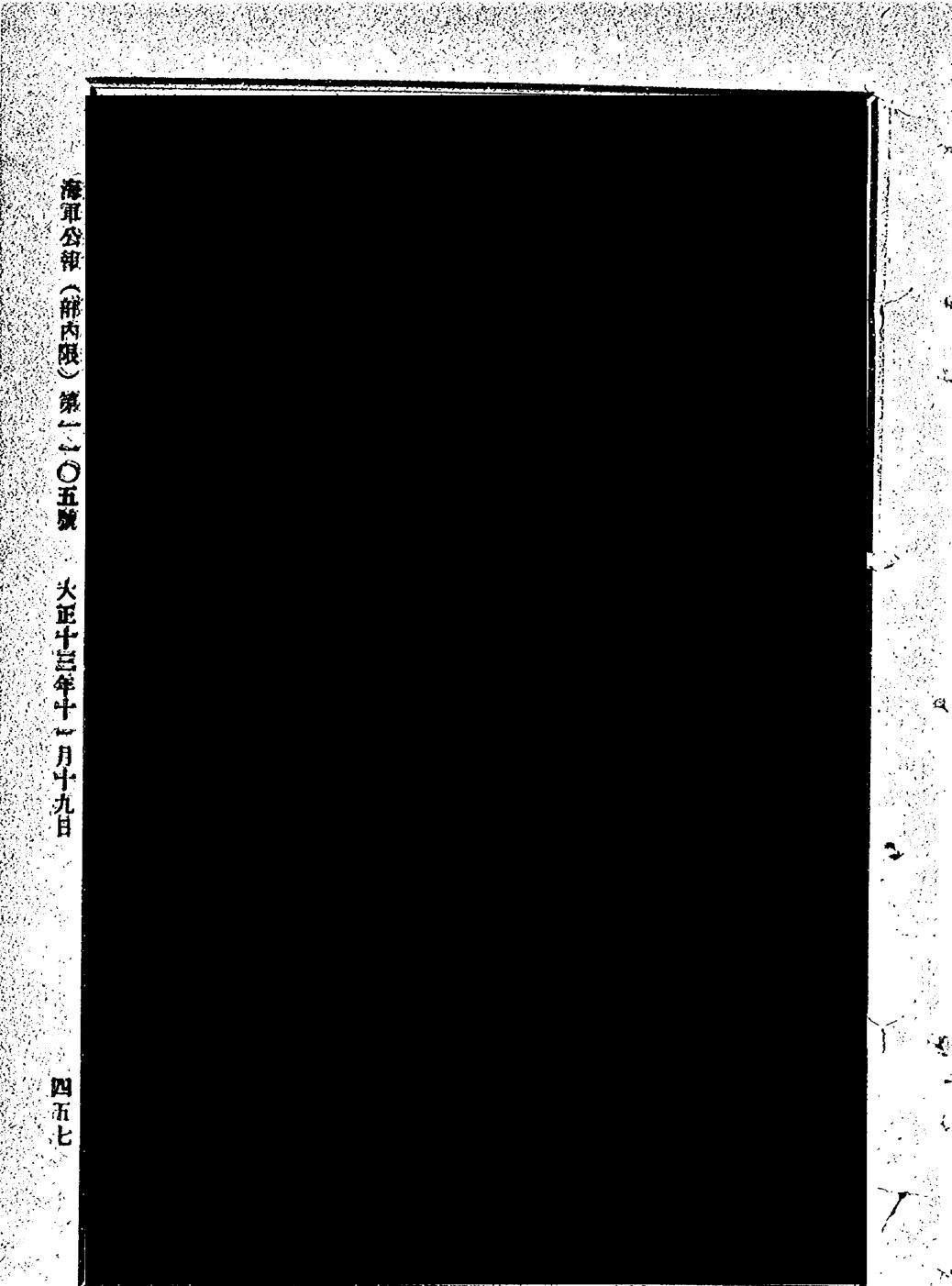
四五六

1916

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>



1917

海軍公報（部内限）第一一〇五號 大正十三年十一月十九日

四五八

1918

1919

# 海軍公報

(部内限) 第千二百六號

大正十三年十一月二十日(木)

海軍大臣官房

## ○命令

官房第一一八九號ノ三

本年官房機密第一一八九號中横須賀海兵團機關科分隊

大正十三年十一月二十日

海軍大臣財部彭

## ○通牒

経校教第一〇一號

大正十三年十一月二十日

海軍經理學校

部内各部御中

第二回臨時講習講義錄ノ件

本年二月ヨリ六月ニ亘リ本校ニ於テ實施相成候退職士官ニ對スル第二回臨時講習科目中左記ノモノハ速記ヲ

海軍公報一部内限 第二〇六號

大正十三年十一月二十日

四五九

附シ講義錄トシテ發刊ノ豫定ニ有之候ニ就テハ部内ニ  
於テ要望ノ向ニハ實費ヲ以テ配布可致候條左記ニ依リ  
御申込相成度

記

科目	講義 時數	講 師	
商法	四〇、五	東京商科大學講師 法學博士志田鉢太郎	
工場法制	九	內務省社會局監督課長 法學士吉坂俊藏	
財界事情	四	三井銀行大阪支店長 法學士山室宗文	
農村問題	四	農務省農務局農政課長 法學士石黒忠篤	
養鷄	九	農學博士恩田鐵彌	
養豚	一〇	農學博士恩田鐵彌	
綿羊ノ飼養管理	七	畜產試驗場技師 農學士木村和誠	
種羊場技師兼農務技師 農學士齊藤信介	三四	農學士齊藤信介	

1920

海軍公報(部内報)第三〇六號

大正十三年十一月二十日

備考

説義錄	講義錄	新聞學	詐欺的行爲	計
講義錄	講義錄	新聞學	詐欺的行爲	計
九六、五	九六、五	九六、五	九六、五	九六、五
軍人	軍人	軍人	軍人	軍人
大正年十一月二十日	大正年十一月二十日	大正年十一月二十日	大正年十一月二十日	大正年十一月二十日
應答軍令	應答軍令	應答軍令	應答軍令	應答軍令
用紙	用紙	用紙	用紙	用紙
半紙	半紙	半紙	半紙	半紙
單紙	單紙	單紙	單紙	單紙
要望者ノ官氏名ヲ列	要望者ノ官氏名ヲ列	要望者ノ官氏名ヲ列	要望者ノ官氏名ヲ列	要望者ノ官氏名ヲ列
記スルヨト	記スルヨト	記スルヨト	記スルヨト	記スルヨト
各部ニ申込書ノ控	各部ニ申込書ノ控	各部ニ申込書ノ控	各部ニ申込書ノ控	各部ニ申込書ノ控
保留ノヨト	保留ノヨト	保留ノヨト	保留ノヨト	保留ノヨト
本公報を要望者一員共に中附	本公報を要望者一員共に中附	本公報を要望者一員共に中附	本公報を要望者一員共に中附	本公報を要望者一員共に中附
宣傳第一八武總一三、	宣傳第一八武總一三、	宣傳第一八武總一三、	宣傳第一八武總一三、	宣傳第一八武總一三、
一、講義錄ハ右表ノ全科目ヲ取纏メ一部トナス從テ科 目ヲ選擇シ一部ノ要望ニハ應シ難シ	一、講義錄ハ右表ノ全科目ヲ取纏メ一部トナス從テ科 目ヲ選擇シ一部ノ要望ニハ應シ難シ	一、講義錄ハ右表ノ全科目ヲ取纏メ一部トナス從テ科 目ヲ選擇シ一部ノ要望ニハ應シ難シ	一、講義錄ハ右表ノ全科目ヲ取纏メ一部トナス從テ科 目ヲ選擇シ一部ノ要望ニハ應シ難シ	一、講義錄ハ右表ノ全科目ヲ取纏メ一部トナス從テ科 目ヲ選擇シ一部ノ要望ニハ應シ難シ
一、價格ハ印刷部數ニ依リ相違ズヘキ。一部約或圓内 外ノ見出ナリ。	一、價格ハ印刷部數ニ依リ相違ズヘキ。一部約或圓内 外ノ見出ナリ。	一、價格ハ印刷部數ニ依リ相違ズヘキ。一部約或圓内 外ノ見出ナリ。	一、價格ハ印刷部數ニ依リ相違ズヘキ。一部約或圓内 外ノ見出ナリ。	一、價格ハ印刷部數ニ依リ相違ズヘキ。一部約或圓内 外ノ見出ナリ。
一、配本時期ハ來年一月上旬ノ既定	一、配本時期ハ來年一月上旬ノ既定	一、配本時期ハ來年一月上旬ノ既定	一、配本時期ハ來年一月上旬ノ既定	一、配本時期ハ來年一月上旬ノ既定

(部内限)

大正十三年十一月二十日

義濟會々長 山 下 源 太 郎  
義濟會盟約書中左ノ通リ改正ス

第一條第三號中「天災等」ノ次ニ「止ムヲ得ザル事情」ヲ加フ

第一條ノ二「前條第二號」ノ次ニ「及第三號」ヲ加フ

第五條ノ二第一項中「天災等」ノ次ニ「止ムヲ得ザル事情」ヲ加ヘ「贈與ス  
ル金額」ノ次ニ「ノ半額」ヲ削除ス

同條第二項中「前項貸與」ノ次ニ「並ニ返済」ヲ加ヘ「規定ハ」ノ次ヲ「別ニ  
之ヲ定ム」トシ以下削除

1921

# 海軍公報

(部内限) 第千二百七號

大正十三年十一月二十一日(金)  
海軍大臣官房

## ○令達

官房第三五八號

左記通籍役船ノ所屬ヲ變更ス

登載大正十三年十一月二十一日

海軍大臣財部彪

## ○通牒

軍務機密第〇二一號ノ六

大正十三年十一月二十一日

海軍省軍務局長小林躋道

各關係廳長殿

大正十三年十一月二十一日  
海軍省軍務局長小林躋道



海軍航空隊編制令草案ニ關スル件

當分ノ間海軍航空隊編制令草案第二十一條ニ依ル第一  
搭乘配置ニ充ツヘキ者ハ左記範圍以内ニ限定致度  
右依命申進ス

記

船種	公稱番號	舊所屬	新所屬	記事
カツタノ三〇呂	第四五號	海軍兵學校	海軍機關	
	第五〇七號	海軍兵學校	海軍機關	
	第五一〇號	海軍兵學校	海軍機關	
第五三八號	第五一八號	定數補充		

- 一、司令、副長、機關長
- 二、飛行隊附、航空船隊附、氣球隊附
- 三、機體整備分隊長、同分隊士、發動機整備分隊長、  
同分隊士、工業分隊長、瓦斯分隊長
- 四、特務科分隊長、同分隊士ノ各三分二
- 五、工業分隊士、瓦斯分隊士ノ各二分一

海軍公報(部内限)第一二〇七號  
大正十三年十一月二十一日

四六一

1922

六、飛行分隊 機體員、發動機員  
特務科分隊 射爆員、魚雷員、寫真  
機體整備分隊 機體整備員、信號員  
發動機整備分隊 機體整備員、發動  
機檢査員 機體檢査員

各四分一

氣球分隊 機體員、發動機員  
瓦斯分隊 船體員、發動機員  
航空船分隊 船體員、發動機員  
瓦斯分隊 機體員及繫留機員

各八分一

八、海軍航空隊練習部ニ屬スル専務教官（第一搭乗配置在レーダー除ク）教員（同上）分隊准士官以上（同上）ノ各二分一

○雜款

○正誤  
本月三十日公報（部内限）令達欄中「官房第一一八九號ノ三」六官房機密第一一八九號ノ三ノ誤

1923

# 海軍公報

(部内限) 第千二百八號

大正十三年十一月二十二日(土)  
海軍大臣官房

# 海軍公報

(部内限) 第千二百八號

大正十三年十一月二十二日(土)  
海軍大臣官房

(限 内 部)

登載

官房第三五五二號

大正十三年十一月二十二日

海軍省副官 藤田 尚徳

關係廳長殿

艦船工事ニ關スル件

艦船ノ修理、改造、艤装品並ニ機關附屬物ノ増減引換  
ヲ要スルトキハ艦船其ノ他各部ノ長ヨリ其ノ艦船ノ本  
籍鎮守府ニ屬スル海軍工廠長ニ請求スルノ規程ナルモ  
近來直接海軍大臣宛上申セラル向不勘斯クテハ法規  
ノ精神ニ悖ルノミナラス事務取扱上ニモ不便有之候條  
爾後艦船造修試験検査規則第四十一條、第四十二條及  
第四十二條ノ二ニ依リ處理相成度  
右依命通牒ス

# 海軍公報（部内限）附錄

大正十三年十一月二十二日（土）

海軍大臣官房

大正十三年九月中ニ於ケル艦船恩給年加算始終期左ノ通

（海軍省軍務局）

編 號	樺 橘 櫻	天 津 風	時 津 風	艤 艤	龍 田	對 馬	艦船名		始 期	終 期	行 先	任 務	年 月 日	地 名	加 算 率	記 事	
							年	月									
一、三、九、二	馬公	南支那	外國鎮戍	一、三、九、一〇	基隆	一、三、九、一〇	一、三、九、一	一、三、九、一	一、三、九、一四	一、三、九、一九	佐世保	同	同	同	同	同	事

1925

海軍公報（部内限）附錄

柏	一三、九、二	同	同	同	一三、九、二一	同	同
松	一三、九、二	同	同	同	一三、九、一〇	同	同
桐					一三、九、一	旅順	
杉	一三、九、二	馬公	南支那	外國鎮戍	一三、九、二二	基隆	一月半
第六十九 潛水艦	一三、九、二五	同	同	同	一三、九、一五	吳	同
石廊					一三、九、二七	同	
隱戶					一三、九、一三	橫須賀	
鶴見					一三、九、一八	佐世保	
神威					一三、九、一二	本斗	
膠州					一月半		
華崎							
知床							
一三、九、二二	小樽	樺領沿岸	外國鎮戍				
一三、九、一八	奧岡	樺領沿岸	外國鎮戍				
一三、九、二四	德山	大湊	一月半				

1926

(在役艦ノ部) 在役年ノ終期ハ同在役年ノ始期ノ項ノ下ニ記載スルモノトス

洲崎									
第四號 驅逐艦									
追加訂正									
夕暮	一三、七、二七	真岡	露頭沿岸	外國鎮戍			一三、九、一六	一三、九、二	横須賀
三日月	同	同	同	同			同	同	同
白露ノ部	「一三、八、九」ノ項中 地名欄ノ「真岡」ヲ「大泊」ニ改ム								
夕立ノ部	始期ノ欄中「一三、八、一」ヲ「一三、八、九」ニ改メ 地名欄ノ「真岡」ヲ「大泊」ニ改ム								

1927

# 海軍公報(部内限) 第千一百九號

大正十三年十一月二十四日(月)

海軍大臣官房

○令達

カツタ一言號

第五九二號 海軍水雷學校附屬工場所

大正十四年五月末日

官房第三五六二號  
大正十三年度部外注文新造雜役船ノ公稱番號其ノ他左  
成ノ通定ム

大正十三年十一月二十四日

海軍大臣財部

大正十三年十一月二十四日

記事

曳船兼交通船 第六〇九號 海軍水雷學校附屬工場所  
大正十三年度新造雜役船ノ船種、公稱番號及所屬等左  
成ノ通定ム

大正十四年五月末日

運貨船		船種	公稱番號	所屬	製造場所	納入期日
五百噸 シヤン船 積船	五十噸 ダルマ型 積船	第三五三號	第三五〇號	海軍工賀務部	海軍工賀務部	大正十四年三月二十日
第三五五號	第三五七號	第三五三號	第三五〇號	横須賀海軍工賀務部	横濱造船渠	大正十四年三月二十日
横須賀海軍工賀務部	横濱造船渠	横須賀海軍工賀務部	横濱造船渠	横須賀海軍工賀務部	横須賀海軍工賀務部	大正十四年三月二十日
大正十四年三月二十日	大正十四年三月二十日	大正十四年三月二十日	大正十四年三月二十日	大正十四年三月二十日	大正十四年三月二十日	大正十四年三月二十日

運貨船		船種	公稱番號	所屬	記事
五百噸 シヤン船 積船	五十噸 ダルマ型 積船	第三五三號	第三五〇號	佐世保海軍工廠	佐世保海軍工廠
第三五七號	第三五九號	第三五三號	第三五〇號	佐世保海軍工廠	佐世保海軍工廠
佐世保海軍工廠	佐世保海軍工廠	佐世保海軍工廠	佐世保海軍工廠	佐世保海軍工廠	佐世保海軍工廠
大正十三年十一月二十四日	大正十三年十一月二十四日	大正十三年十一月二十四日	大正十三年十一月二十四日	大正十三年十一月二十四日	大正十三年十一月二十四日

海軍公報(部内限) 第一二〇九號 大正十三年十一月二十四日

四六五

1928

大正十三年十一月二十四日

四六六

1929

○通牒		橋 船		運貨船		カツタ一三〇呎		第五八九〇號	
大正十三年十一月二十四日 關係各廳長殿		軍需部		吳海軍		佐世保海兵團		第五九〇號	
海軍次官男爵安 保 清 種		橫須賀海軍港		吳海軍工廠ニテ新造ノ		大正十三年十一月五日、官房第三三四號訓令		第五九〇號	
本邦機密第一三四七號		軍工廠ニテ新造ノ		大正十三年十一月五日、官房第三〇三號訓令		第五九〇號		第五九〇號	
○正誤		記		聯合艦隊司令長官ノ管掌スヘキ軍政事項		聯合艦隊司令長官ノ管掌スル件		大正十三年十一月四日、官房第三〇三號訓令	
軍人、文官、同待遇者		一 艦船部隊ノ行動配備ニ關スル事項		二 聯合艦隊全般ノ演習、戰技及主要訓練作業ニ關スル事項		三 行動需品ニ關スル事項		大正十三年十一月四日、官房第三三四號訓令	
○正誤		四 艦船ノ行動ニ關係アル重大ナル艦政ニ關スル事項		五 聯合艦隊トシテ齊一ヲ要スル儀制、日課、週課等ニ關スル事項		六 官房第三三四號訓令		六 官房第三三四號訓令	

# 海軍公報

(部内限) 第千二百十號 海軍大臣官房

大正十三年十一月二十五日(火)

## ○令達

官房第三五七一號

海軍工務規則第六十七條及同條ヲ準用スル諸規定ニ依

本年十二月施行スヘキ定期賞與ハ十二月一日現在貞

ニ就キ左ノ標準ニ據リ之ヲ支給スヘシ

海軍燃料廠採炭部及平壤鐵業部ノ鑄夫ニ對シテハ十二

月一日現在貞ニ就キ同様ノ標準ニ依リ賞與ヲ支給スル

コトヲ得

大正十三年十一月二十五日

海軍大臣 財 部 彪

在職 一年以上勤続者 日給二十日分以内

同 十ヶ月 同 同 二十日分以内

同 八ヶ月 同 同 十五日分以内

同 六ヶ月 同 同 十 日分以内

同 三ヶ月 同 同 五 日分以内

同 一ヶ月 同 同 三 日分以内

海軍公報(部内限) 第二二一〇號 大正十三年十一月二十五日

四六七

## ○通牒

教育機密第二三五號

大正十三年十一月二十五日

海軍省教育局長 白根熊三

關係各廳長殿

潜水艦發射機員編制ニ關スル件

潜水艦發射機員ノ編制ニ關シ疑義ヲ有セラルノ向有之  
様察セラレ候處本件ハ魚雷發射操式ニ明記シアル通左  
記ニ據ル義ト御承知相成度

右申進ス

記

一、魚雷發射操式第一章總則第三及第四但書中各管ト  
ハ聯管ヲ構成セル各單一管ヲ意味スルコト  
ト

二、聯裝發射管ハ左記ニ準シテ配員ン番號ヲ附スルコ

1930

海軍公報（部内限）第二二一〇號 大正十三年十一月二十五日

四六八

(一) 六聯裝艦首固定發射管（括弧内へ魚雷發射機式第一章  
ルモノヲ示ス）

長

一、二、(三)(右上)

(備考)

十三年度發射檢定ニ  
テハ此人員ヲ以テ一  
組トセリ

一、(二)(三)(右下)

組トセリ

長

一、二、(三)(左上)

組トセリ

一、(二)(三)(左中)

組トセリ

長

一、(二)(三)(左下)

組トセリ

(二) 四聯裝艦首固定發射管ハ前記ノ(右中)及(左  
中)ヲ除キタルモノトス

○ 雜 款

○訂正

本月二十四日公報（部内限）通牒欄中「官房機密第一  
三四七號」ヲ「官房第三五六七號」ニ訂正

1931

# 海軍公報

(部内限) 第千二百十一號

大正十三年十一月二十六日(水)  
海軍大臣官房

## ○令達

官房第一五六九號ノ四

大正十三年五月二十一日官房第一五六九號軍需部整理  
登載消耗兵器附表中左ノ通改正ス

大正十三年十一月二十六日

海軍大臣 財部 彪

砲術長主管ノ部 甲、

「射擊用及空放用藥莢類」ヲ「○射擊用及空放用藥莢  
類」ニ改ム

## ○辭令

杉田正

第十八驅逐隊ニ於ケル露語通譯嘱託ヲ解ク(十一月海  
軍省)

海軍公報(部内限)第二二一一號 大正十三年十一月二十六日

四六九

1932

(限 内 部)

海軍公報(部内限) 第千二百十二號

大正十三年十一月二十七日(木)  
海軍大臣官房

○通牒

海人第一〇七號

大正十三年十一月二十七日

海軍省人事局長 山梨勝之進

所屬長官殿

判任文官以下年末賞與勤務期間解釋ノ件

官房機密第一三三六號年末賞與ノ勤務期間ニ就テハ官

房機密第二八一號ノ適用ヲ受ケタル左記ノ者ニ對シテ

モ官房機密第三〇六號令達ノ期日ノ翌日ヲ起算日トシ

ヲ計算スル儀ニ有之候

右依命申進ス

判任文官、同待遇者

雇員、傭人

判任官待遇以下ノ嘱託者

1933

# 海軍公報

(部内限) 第一千二百十三號

大正十三年十一月二十八日(金)  
海軍大臣官房

○令達

官房第三六一八號

海軍水雷學校ニ於テ臨時電信術講習ヲ施行ス左記ニ依

講習員ヲ派遣スヘシ

大正十三年十一月二十八日

海軍大臣 財部 彪

(但本年十一月海軍水雷學校高等科通信術學  
生教程卒業者ヲ除ク)

二、講習期間

大正十四年一月八日ヨリ十四日間

三、講習課目

新式電信諸兵器並通信法

(限 内 部 分)

登

一、講習員  
記

東京、佐世保、大湊、宗谷、父島電信所長

(二) 横須賀、吳鎮守府、舞鶴要港部、第一、第二艦

隊、第三、第五戰隊、第一、第二水雷戰隊、第

一、第二潛水戰隊通信主務參謀

陸奥、日向、山城、扶桑、金剛、比叡、霧島、

大井、鬼怒、長良、名取、由良、川内、五十鈴、

鳳翔通信長、若宮通信長職務執行者

海軍公報(部内限) 第一千二百十三號 大正十三年十一月二十八日

四七三

1934

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千二百十四號

大正十三年十一月二十九日(土)  
海軍大臣官房

○辭令

海軍軍令部出仕海軍機關少佐 伍賀滿  
第三班第五課勤務ヲ命ス(十一月海軍軍令部)

○雜款

○正誤

本月二十五日公報(部内限)令達欄官房第三五七一號  
第二項中「鑄夫」ノ下ニ「並前項ノ適用ヲ受ケナル官  
役人夫(供給人夫)ヲ脱ス